

---

# 君が好き2

允君

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

君が好き2

### 【Zコード】

Z5225D

### 【作者名】

允君

### 【あらすじ】

以前書いた「君が好き」の、その後を書いたノンフィクションです。吉野允と及川瞳の恋の結末は？

僕は及川さんの事が好き過ぎて付き合っている夢を見てしまった  
そこで目が覚めてしまった

クリスマスはまだ2週間以上もある

そしていつもと同じつらい日々が続くと思っていた・・・

今日12月4日はテスト最終日そして自動車学校入校日の中であった  
数ある学校から僕は学年で8人しかいない自学に通つた  
なんと彼女も同じ自学だった

僕は運命だと思った

そしてその日から「自学の事で色々相談とかしたいから」と携帯番  
号とメールアドレスを交換した

メールの内容はいつも自学の事だけど僕はそれでもうれしかった  
彼女はバイトの為あまり自学には通えなかつたけど通つている日は  
彼女と話せる時間を作ろうと時間を調整しながら運転や学科を受けた  
そして空き時間は彼女と一人つきりで運転の事とかバイトの事、プ  
ライベート、時には一緒に仮免の勉強もしている

常に彼女と共に行動している

周りから見れば付き合つてていると誤解されてもおかしくない位行動  
している

それくらい一緒にいる

帰りのバスの中でも隣通しで話している

この時間が一番幸せだった

クリスマスがやつてきた

僕は彼女の為にプレゼントとしてネックレスを買った

でも彼女がバイトの為渡す機会がなくクリスマスが終わってしまった

今日26日から冬休みが始まった

彼女と会える時間が長くなつた

だがやつと会えたと思ったら彼女が眼鏡を忘れてしまつて運転をキ

ヤンセルし帰ろうとした

僕はあせつてプレゼントを取り出した

彼女は「どうしたの?」と言った

僕は照れと緊張しながら「クリスマスプレゼントだ。気に入るか分からぬけど」と言いプレゼントを渡した

彼女は開けようとした

僕は恥ずかしいから「帰つてから見て」と言つた

彼女は笑顔で「ありがとう。じゃあ帰つてから見るわ」といい帰つてしまつた

そして次の日は今年最後の自学になり、2週間以上は会えなくなる為勇気を振り絞り彼女に「冬休み中にデートしよ?」と誘つた

しかし彼女は断つた

僕は何度も誘つた

彼女は照れながら「嫌だ」と言つた

「何で嫌なの?」

「誰かに見られたら恥ずかしい

「別にいいじゃん

「何でヒットなの?」と聞かれ

僕は好きだからと言えず「遊びたいからだよ。デートと言つものをしてみたいから」と言つた

やはり彼女の答えはNO

これが今年最後の会話だつた

そして年賀メールでもデートを誘つた

そしていきなり僕は告白しようと決意し彼女に「大事な話があるから今日会つてくれる?」と送つた

彼女の返事にはショックを受けた

「ごめん。あえないわ・・・

てか、何言おうとしてるかわかつたから先に言つとくね・・・  
ヒットの事はあきらめて。

よしのの気持ちには答えられないわ

「ごめんなさい。」

だった。

予想外の早い振られ方だった

でも僕は納得がいかずダメもとで彼女に「何も伝えられなかつたら今度何らかの形で言うわ」と送つた

そんな思いのまま僕は仮免を受けた

待合室でも試験後でも頭の中は常に彼女を思い出してしまつた

試験は受かつた

すぐに彼女に報告した

数日後「おめでとう」の返事がきた

次の日自学で会いました一緒に話した

彼女は普通だつた

そして夜僕は決意しあの時言いたかつたことを彼女に伝えようと僕の気持ちを伝えた

「初めて及川さんに会つたときは正直恋愛対象としては見れないと思いました

そして初めて学校以外で会つたのは及川さんがバイトしているときです

その時学校では見れない一面が見れました

その日から何となく及川さんの事が気になりましたがそれが恋なのかはわからなかつた

それからいつも授業中大きな声で話す及川さんの声はうるさいから聞きたくに変わりました

面白い話や過去の話、聞きたくない話などで及川さんがどういう人かは何となくわかりました

それからそのまま何もないのかな?と思つたらまたまジャンケンで決ました掃除当番が同じでした

でも及川さんは掃除をサボつたりして全然話せなかつたけど唯一たつた一度だけ一緒に一人乗りして帰つたことはすぐ思い出に残つています

そして自学が一緒なのも奇跡だと思いました。

その時期からメール交換やいっぱい話せて幸せでした

及川さんにおじつてもらったあのアンバサの味は一生忘れません  
メールでは主に自学のことを主な目的として話しているけどそれで  
もうじくうれしいです

友達と言つ仲で終わりたくないと思つたりげなく多数及川さんにア  
ピールしていました

思い出の味や時間が自学だけじゃ嫌だと思つてこの前及川さんにアート  
しようつて言いました

あつやり断られてしまいましたがあの時の発言は自分でも信じられ  
ないくらいの気持ちでした

あの時及川さんにちやら男かつて照れながら言つてこたけど本当に  
本気で誘いました

そしてやらないで後悔するよつやるほつがいと思つて金曜にあのメ  
ールをしました

あの日に言つたかったことはこの事とこれから言つことです

僕は及川瞳と言う女性が大好きです。付き合つてください。

僕は他の人より顔も悪いし体力もなくて頼りないと思つたけど僕なり  
に全力で及川さんを守つてあげます

困つているときや悩んでいるときや泣きたいときなどは俺がずっと  
そばにいてあげます

及川さんと一緒に居ると楽しいしもつと一緒に居たいと思つました  
ということです

こんなことについてこの先嫌われたり話してくれなくなつてこの仲を壊  
れるのは怖いけどこれが僕の気持ちです」

翌日彼女から返事がきた

「昨日の返事だけど、遅くなつてごめんね  
ヒット好きな人がいるんだ。

だからごめんね。

そしてありがとうございました。」だった

僕は強がって「結果はわかつてたけど改めて振られるとくやしいな  
まあ付き合つているならしようがないや

まあ好きな気持ちは変わらないし振られたからといって冷たくしな  
いから

男として最低だから

だからこれからも同じように接するから及川さんも気まずくならな  
いでね

「付き合つてはいなけど気になつてる人はいるんだ

それにその人高校生じゃないんだ」

「そうか

及川さんこの前彼氏いないとか自分いらぬとか言つていたから俺、  
今しかないと思つてずっと告白しようと思つていたんだ  
だからこんな早く恋してるとは思わなかつたよ

「恋したくなかっただけなんだ

今もあんまりしたくないけどね

ちょっと気になるだけだから付き合つとなると難しいかもね

他の人のほうがいいよ。よしのにふさわしい人がいる。

ヒットは女としてダメだし、人間としても不安定、そして今1番不  
安定、あんま頭回つてないんだわ。

だからごめん。

「あんまり自分を悪く言つくなよな

俺は及川さんの性格、努力、笑顔他にもたくさんあるけどそこには惚  
れたんだから

本当に及川さんと居ると元気とが出るんだ」

「今はなんでもネガティブにしか考えらんなくてさ  
とりあえずごめんだわ」

僕は泣いた

泣きまくつた

僕の幸せな時間が消えた

彼女を見るのがつらい

そして僕の「思い」に終止符を打とうとしていた

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5225d/>

---

君が好き2

2010年10月20日23時31分発行